

幌小っ子だより

幌別小学校教育目標

- すすんで学びよく考える子
- 互いに助けあい思いやる子
- 丈夫な体でたくましく生きぬく子

(昭和62年3月改訂)

登別市立幌別小学校

学校だより 第 8 号

令和6年10月22日

自己肯定感を上げる

～子どもの未来を豊かにするために～

校長 松田周一

前期の児童アンケートで少し気になる数値がありました。自己肯定感（「自分には良いところがあると思いますか。」）について問う質問に対して、肯定的な数値が83%。少し低い数値です。

自己肯定感は、様々な困難や問題を乗り越える力を蓄える土台となります。土台が安定している子どもは、自分で問題解決の方法を考えて、試行錯誤しながら行動できるようになっていくといわれています。変化の大きい現代において、自分らしく生きていくためにも、自己肯定感を育てていくことがとても重要なのです。学校としても大切な資質能力の一つであると捉え、様々な教育活動において育成を目指しているところです。ご家庭でも以下のような働きかけをしていただくと、子どもたちのよりよい成長に繋げることができると考えています。

1 褒めるときは結果ではなく、過程を褒める。

「結果」「出来栄え」「見栄え」を意識するようになってしまうと、失敗した時に「自分はダメだ・・・」と感じてしまいます。失敗は成長の一部です。過程を認めてもらう経験が増えると、自分の努力についてポジティブに捉えられるようになります。（これがないと、努力しても無駄という感覚が生まれてしまいます。）

2 ポジティブな言葉掛けをする。

子どもが努力したとき肯定的な言葉で素直に褒めてください。「いつもこうならいいのに。」「次は〇〇ね。」等の余計な一言を付け加える必要はありません。

3 興味を尊重する。

子どもが興味を持っている分野や趣味を尊重し、サポートします。自分の興味を追求できる環境を提供することで、自己肯定感が向上します。

4 大人がモデルとなる行動をとる。

保護者自身がポジティブで自己肯定感のある態度を示すことで、子どもたちに良いモデルを提供します。

※他に「過度の支援をしない。」「小さな目標を設定し達成させ成功体験をもたせる。」「家庭や係などで仕事をやり遂げさせる体験をさせる。」なども重要だと言われています。

自己肯定感が高い子どもは、新しいスキルの習得やチャレンジに対する積極的な姿勢を持ちやすく、失敗や挫折に対しても、立ち直りやすいと言われています。この力を育むことは、子どもたちの未来を豊かにする鍵だと考えます。やれることから結構です。ご家庭でも一緒に励ましていただくと幸いです。

～幌小ニュース～

★学習発表会が終了しました★

子どもたちの今までの努力の成果を、お見せできた発表会だったと考えます。

お忙しい中のご来校、誠にありがとうございました。



鍵盤ハーモニカも頑張りました、1年生



劇の出来も歌声の響きも見事だった、6年生